

神奈川県石川ひろのり

県議会レポート 2023 特別号

住み続けたい街
麻生区のために

石川ひろのり事務所
〒215-0011 川崎市麻生区百合丘1-5-4 米山ビル202
TEL 044-455-6611 FAX 044-455-6614

県議会控室
〒231-8588 横浜市中区日本大通1 神奈川県庁新庁舎7階
TEL 045-210-7650 FAX 045-210-8933

<http://www.hiro-ishikawa.jp/> 石川ひろのり

本当に神奈川県は住みやすいのか
あなたの納めた税金を
「生まれて・育って・住んで良かった」
誇りある神奈川県に。
今日より明日はきっといいことがある。
住み続けたい神奈川県を目指して。



徹底的に
現場主義

約2兆2600億円の令和5年度一般会計予算案。 県税の使い方を考える。

神奈川県議会は2月13日から3月15日（31日間）まで、令和5年第1回定例会が開催されています。この定例会では、令和5年度予算が審議されています。県は昨秋、約350億円の財源不足という厳しい財政状況であると発表しましたが、税収の上方修正や事業の見直し等の対応で予算編成がなされています。

【子ども・子育て支援】

令和5年度、約60億円を計上し、小児医療費の助成を市町村と一体となって支援し、通院した際の補助対象年齢を現行の就学前（6歳）までから小学校卒業（12歳）まで引き上げます。また、支援を必要とする子ども・家庭への取組として約1,494億円が計上されています。具体的には、県内私立高校等に通う家庭の経済的負担軽減のため、年収約700万円未満の世帯及び約800万円未満の多子世帯（15歳以上23歳未満の扶養している子どもが3人以上いる世帯）の授業料並びに住民税非課税世帯までの入学金の実質無償化を継続するなど挙げられます。これまでも切れ目のない子育て支援として環境整備を提案して参りました。今後もこれらの取組に一層尽力して参ります。



【安全で安心な街づくり】

自助・共助の取組や中長期を見据えた減災対策を進め、地域防犯力の強化や消費者被害の未然防止と救済、県民と一体となった交通安全運動・対策等を実施することにより、犯罪や事故のない安全で安心なまちづくりを推進するとしています。具体的には、道路・橋りょう、港湾等の整備による緊急輸送体制の確保等に約258億円、消えかけた横断歩道など道路標示の補修や信号灯器のLED化など、交通安全施設の整備などに約55億円の予算が組まれています。



犯罪や事故などのない安全で安心なまちづくり
55億1,049万円
▶防犯カメラの設置支援を拡充
(機能強化を伴う更新等を対象に追加)
▶交通安全施設の整備の推進

【新型コロナへの対応】

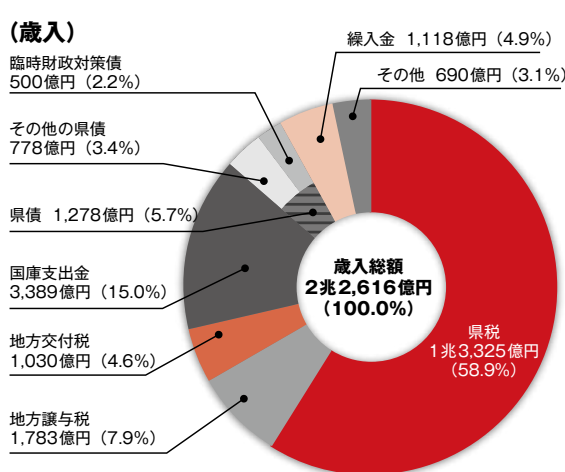
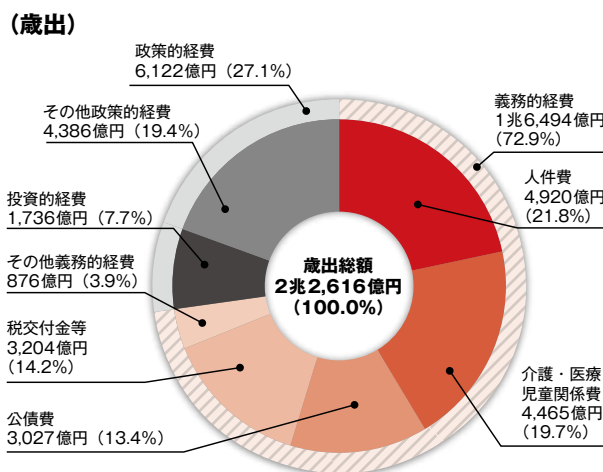
新型コロナ感染症との共存を前提とした「持続可能な医療提供体制」を構築するため、必要な感染拡大防止対策や医療提供体制の維持に取組むとして病床確保に約1,355億円、専用窓口などの相談体制に約60億円など、予算額約2,099億円が組まれています。

- ▶ワクチンの個別・職域接種促進
- ▶医療機関が行う設備整備の支援
- ▶相談窓口（コールセンター）の運営 等

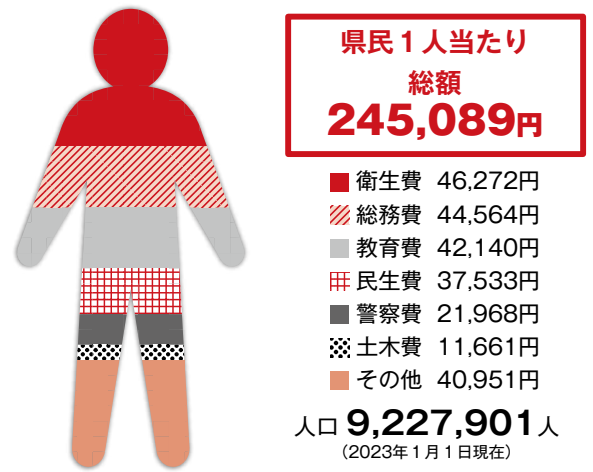


2023年度県一般会計予算案

※項目は主なもの。1億円未満切り捨てのため、合計が一致しない場合がある



2023年度当初予算案の使いみち



国・県・市が連携して地域の政策課題に取り組んでいます。



衆議院議員
りゅう
笠ひろふみ

私の麻生区担当秘書を務め、3期目の挑戦となる石川ひろのりさんは真面目でまっすぐ。民間企業約20年、秘書経験を8年間積み、「徹底的に現場主義」をモットーに県議会議員として8年間、県に対し地域の声を訴えてきました。誰を選ぶかで地域は変わる。バランス感覚と行動力を持った石川ひろのりさんを自信を持って推薦します。



川崎市議会議員
ゆうじ
あまがさ裕治

地下鉄延伸の公約を達成！
新百合ヶ丘駅周辺を活性化させることで麻生区全体に好影響をもたらす魅力あふれるまちづくりを推進します！！
石川さんは頼りになる人材ですので密接に連携し市民生活向上を実現します。



川崎市議会議員
こばりか子

石川ひろのりさんとは、これまでも教育分野や民生委員・児童委員の課題、信号設置など、市だけでは対応できない課題について連携を図り活動してきました。これからも暮らしやすい川崎を目指し、連携を強化してまいります。



川崎市議会議員
すずきともこ
鈴木 朋子

新型コロナの影響・ウクライナ危機の深刻化・物価高騰など、社会は激変の渦中。長年培った法律の知見を基に価値観をアップデートしながら今の声を捉え、麻生区を持続可能なまちへ。石川さんと連携して取り組んでまいります。

石川ひろのり

これまでの活動報告

地域活動 「地域の声を政治の場へ」

地域要望

栗木台「横断歩道の引き直し」、片平「カーブミラー設置」、「百合丘駅前信号機 渋滞対策」など、地域のさまざまなお困りごとやご要望を解消すべく、現地調査、解決に向けた話し合いなどを行ってきました。



地域行事

この3年間、コロナの影響等により行事は少なくなりましたが、伝統行事である「どんど焼き」や3年ぶりに開催された「あさお区民まつり」では実行委員会顧問として行事に参加させていただきました。地域行事の中で、直接皆さまからたくさんのお声を伺うことができました。これからも安心・安全な街づくりの為、皆さまの声を政治(議会)の場へ届けて参ります。



議会の報告を地域の皆さまへ

駅頭・街頭活動

地域の皆さまに直接、議会の報告をする為に、初当選以来8年間麻生区内の各駅にて通勤・通学時間帯を中心に、県議会レポートをお配りしながら街頭活動を行って参りました。



県議会レポート

秘書時代、「地域の声が政治の場に届いていない」というお話を皆さまから伺ったからこそ、県議会で石川ひろのりが何を質疑し、知事や行政の回答はどうだったのかを皆さまにしっかりとお伝えしたいという想いで、2期8年間で通常版29号および特別号16号、合計45号の県議会レポートを作成して参りました。今後もこの想いを大切に、県議会レポートを発行して参ります。



バックナンバー

- 2020年 Vol.19 「協力金、補助金の迅速な支払いを要求！」 予算委員会にて質疑
- 2021年 Vol.21 過去最大となる2兆484億円の令和3年度一般会計予算成立。
- 2022年 特別号 新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」に向けた取組について 代表質問に登壇
- 2023年 特別号 「新型コロナウイルスとの共存」これからのかながわについて 一般質問に登壇など、全45号(通常版29号 特別号16号)を発行

議会レポート、タウンニュースのバックナンバー・委員会質問など詳しくはHPまたはFacebookにてご覧いただけます。



石川ひろのり プロフィール

1968年11月3日生まれ 横浜市出身。旅行会社、飲食業を約20年間経験。「行政とはサービス業である」との言葉に感銘を受け、37歳で衆議院議員岩間哲人事務所へ転職。その後、参議院議員公設秘書を経て、政策秘書資格を取得し参議院議員政策秘書を務める。衆議院議員 笠ひろふみ秘書を経て、2015年4月神奈川県議会議員に初当選(現在2期目)。麻生区在住。引きこもり支援相談士。
 趣味: ジョギング(湘南国際マラソン大会・横浜マラソンなどに出場。自己ベスト記録 3時間29分28秒) 家族: 妻、子供一人
 好きな言葉: 「石の上にも3年」初めて社会人になる時に父から言われ「どんなに苦しくても耐えること。そこで初めて全体が見える」という言葉を今でも忘れない。

石川ひろのりの活動報告・委員会質問など詳しくはHPまたはFacebookにてご覧いただけます。

ボランティアスタッフ募集

石川ひろのり事務所では随時ボランティアスタッフを募集しています。広告用チラシ折り、ポスター掲示、街頭演説のお手伝いなど短時間でもかまいません。皆様のご支援とご協力をお待ちしています。▶連絡先: TEL 044-455-6611

石川ひろのりの活動への
ご支援(個人献金)のお願い

石川ひろのりの活動にご協力賜りたくご案内させていただきます。なお、寄付は税額控除の対象となりますので、ご相談くださいますようお願い申し上げます。
 ▶石川裕憲後援会【郵便局】払込取扱票にて(口座番号 00200-7-52777)【銀行】三井住友銀行 新百合ヶ丘支店 普通 口座番号 6902358

石川ひろのりへの ご意見・ご質問をお待ちしております。 FAX 044-455-6614	ご意見など	お名前	TEL
		ご住所	

議会活動



子育てを応援

「病児保育問題」「休日保育の取組みについて」「保育士確保」など、女性の社会進出、ひとり親家庭の増加に伴うさまざまな問題を他県の好事例を挙げて質問し、提案を重ねてきました。働く親にとって子どもを安心して預け、育てられる環境づくりを要望してきました。

教育支援

「コロナ禍における県立高校の学校説明会」「生徒のためのスクールキャリアカウンセラー待遇改善」「児童虐待対策としての学校連携強化」等について質問。コロナ禍で学校選択充実のため全県立学校での紹介動画の配信を提案し実施されました。また、子どもみらい局と県教育委員会の連携を強化し、学校がプラトホームとなる児童虐待対策の早急な対応も粘り強く求めています。

高齢者世代を支える

「民生委員の担い手確保」「今後の公共交通施策について」など質問。高齢者の単身世帯化、免許返上などの理由による日常生活の不便を解消すべく、今後、公共交通の貧弱化が進まないよう市町村と連携した支援を要望してきました。民生委員については、根本的な業務内容の見直しや依頼内容の整理を求め、知事より「国に対して要望し負担軽減に取り組んでいく」との答弁がありました。今後も粘り強く提案を続けて参ります。

横浜市営地下鉄3号線延伸

初当選以来要望を続けてきた「横浜市営地下鉄3号線のあざみ野駅から新百合ヶ丘駅までの延伸」は事業化が決定し、2030年ごろの開業を目指すとしています。需要予測は8万人/日。沿線の活性化や新駅周辺の街づくりに弾みがつきます。今後も早期実現に向けて尽力して参ります。

タウンニュース

「地域の声」を伺い、議会で質疑を行い、その結果を駅頭・街頭活動、議会レポートなどを通じて報告をする。このことが議員としての責任であると私は考えます。そして、より多くの方に議会のご報告を知っていただくために、タウンニュースへこれまで45回の寄稿を続けてきました。地域行事へ参加の際には、記事を読んでいただいた方よりご意見などを伺う機会も幾度となくありました。そして、そのご意見をまた政治の場に届ける。この繰り返しの続けることによって、地域の皆さまが「今、行政に行ってほしいこと」と「行政が進めたい事業」のすれ違いが減っていくのではないのでしょうか。だからこそ、これからも私の信条である徹底的に現場主義を貫きます。

バックナンバー

- 2019年 8月 Vol.25 「生徒に向き合う時間確保のための改革を」
- 2020年 7月 Vol.28 「新型コロナとの共存」代表質問で質疑
- 2021年10月 Vol.35 「コロナ禍の学校選択充実のために」
- 2022年12月 Vol.43 「コロナ出口戦略を見据えた施策」を求めるなど、全45号を寄稿

